



今月の記事

看取りをご家族と共に

近ごろの愛の園

私の仕事 Part II

リレーエッセイ

2～3月の予定



エンド・オブ・ライフケア ご家族と共に

愛の園では毎年「看取り」に関する研修を行い、今年は1月20・27日の2回で全職種の97名が受講しました。愛の園の入居者の平均在園年数は5年弱、最後の生活の場所としてお選びいただく方が大多数で、看取りのケアはとても重要な課題となっています。

今年の研修の中で「エンド・オブ・ライフケア」について学びました。がん患者の疼痛や症状の管理に重点を置く「緩和ケア」や終末期に特化した「ターミナルケア」だけでなく、自宅やグループホーム、特別養護老人ホームなどの生活の場において、ご本人とご家族の生活に合わせた終末期ケアを大切にしようとする考え方です。

「エンド・オブ・ライフケア」を進める中で私たち職員に求められることは、ご本人のライフ(生活や人生)に焦点を当て、多様な看取りの選択を考えて、ご本人のQOL(生活の質)を最大限に保ち、最良の死を迎えられるようにすること、「ご家族と共通の目標にする」ことです。これから

どう生きるかを共に考え、ご本人だけでなく、共に時を重ね共に生きてご家族にとっても最善の選択ができるよう関わりたいと思っています。

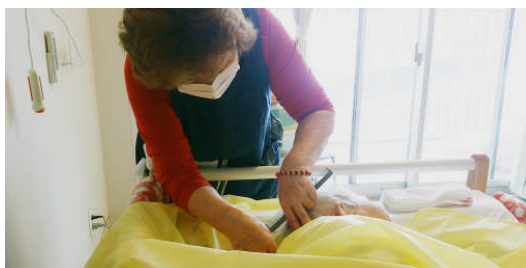
愛の園家族の会では、入会されたご家族に「旅立ちのとき—よりそうあなたへ—」(ホスピス財団)という冊子をお配りし、人生の最後に寄り添うための手引きとしていただいています。今回の研修講師も、日頃のご家族との交わり、思いや願いを共有することの大切さを熱心に伝えてくれました。

職員からは積極的に日頃の生活の様子をお伝えてまいります。ご本人とご家族、そして職員とが思いを共にして、愛の園での生活が最後まで豊かであるよう協働したいと願っています。



まだまだ寒い日が続いていますが愛の園の周辺で梅の開花が進んでいます。紅梅の向こうは名産の南高梅の白い花です。

近ごろの愛の園 あんなこと、こんなこと



毎月6回ほど、近くのビューティサロンから入居者・利用者の皆さんのヘアカットに出張してもらいます。ベッド上でも綺麗に整えていただけます。1/24



今年も「鬼は外、福は内！」と元気に豆まきをして無病息災を願いました。数え年の数だけ食べると健康になるそうですが…、ちょっと難しいですね。2/3



温かい南紀では珍しく5cmの積雪で迎えた朝。1年に一度あるかないかの雪景色です。ショートステイとデイサービスの送迎、朝6時からの職員の出勤と夜勤職員の帰宅を心配しましたが、それぞれ支障がなくホッとしました。入居者の皆さんは雪ウサギや小さな雪だるまを作って楽しそうでした！ 1/24





私の仕事 Part II (6) 「看護職員」

看護職員
釣本眞次

私は、昨年の6月末から医務室で看護師として仕事をさせていただいています。看護師の仕事は25年ほどのブランクがあり、不安と緊張で一杯でした。特に特別養護老人ホームは病院とは違い、治療を行うのではなく、入居者の方々が最期まで楽しく人生を過ごせるお手伝いをするところである、ということを理解するのにかなり時間がかかりました。仕事としては、入居者の方々の日々の健康

管理としてバイタルチェック、褥瘡や創傷の処置、点滴や薬の配薬や投薬、経管による栄養注入(胃婁や経鼻など)、口腔ケア、病気の予防や施設全体の衛生管理、容態が急変した場合の救急対応等、まだまだ他にもたくさんの業務があります。

25年間も大型トラックに乗って日本全国を走り回っていた私にとっては何もかもが初めての感覚で、昔の記憶をたどり日々勉強の毎日です。よちよち歩き位のスピードで仕事を覚えながら同時に入居者の方々の顔と名前、そして職員の顔と名前を覚えながらあっという間に半年が過ぎました。先輩方の足を引っ張りながらもなんとか独り歩きを始めています。まだまだ勉強不足ですが、入居者の方々の人生に寄り添って楽しく過ごせるお手伝いのできたいなと思います。



釣本眞次

仁木和子

山本礼子

竹中壽美

松本泰子

リレーエッセイ(52) 「こんな私でも」

ケアワーカー
山本善子

「キリストの愛を以って
互いに仕える」

社会福祉法人神愛会
特別養護老人ホーム愛の園

〒649-2103
和歌山県西牟婁郡上富田町
生馬 316-56

TEL (0739)47-1234

FAX (0739)47-4329

Email ainosono@shinai.or.jp

「あのお～、…ト…マ…交換…して…」以前の勤務先の賑やかな店内で手押し車をついた、初めて見かける女性のお客さまからの「交換」の言葉に、「タバコの交換ですか？」とお客様の耳元でのんきに尋ねると、「ストマ交換手伝って!!」、「替えを持ってくるのを忘れたからトイレに連れてって。」と。

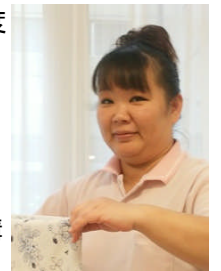
『ストマ???』私の頭の中は「？」で一杯になりながらもお客様と一緒にトイレへ。入るなりお客様は服をめくり上げ、小さなパックを指さしながら「コレ!!便を取るの手伝ってほしいんや!!」

正直…、失礼かもしれませんがかなりビックリしました。介護の知識は全くなかった私…。『でも、どうやって取るの?取り方知らんし…。でも、この便取らないとお客様は困るんだ。』と思うと同時に、ビニール袋を手にはめ、便を掻き出し、パックの口を閉め、服装を整え交換

完了?! お客様は何度も何度もお礼を言い帰られました。

この時、『こんなやり方で良かったのか??私にもっと介護の知識があれば…。』と強く思い一念発起、会社を辞めて初任者研修を受講しました。研修期間中、『本当に私…、やっていけるのかしら??』と不安になり挫折しそうになりました。それでも『こんな私でも人の役に立つことが出来るんだ!いや!!役に立ちたい!!』と強い気持ちを持ち研修を終え現在に至っています。

入居者の方と先輩職員から机上では体験できなかった色々なことを日々勉強させていただいています。こんな私ですが一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。



Facebookもチェック 
<https://www.facebook.com/shinaikai>

2～3月の愛の園

- 12(日) 礼拝(み言葉の礼拝)
バレエ・タヒチアンダンス公演
- 13(月) ヨガ教室
- 14(火) マリア会
- 16(木) やまびこ会
- 17(金) 社協ボランティア来園
レクリエーション「いずみこんこん」
- 19(日) 礼拝(み言葉の礼拝)
- 20(月) ヨガ教室
まりもと愉快的仲間たち来園
- 22(水) 歯科診療
- 23(木) やまびこ会
- 26(日) 礼拝(聖餐式)
- 27(月) マッサージ ヨガ教室
- 28(火) マリア会
- 2(木) やまびこ会
- 5(日) 礼拝(み言葉の礼拝)

編集者から

若年性認知症患者である丹野智文さんの「41歳、認知症と歩む」という記事を読みました。(「おはよう21」中央法規出版)

「全国では認知症サポーター養成講座が開催されており、サポーターの数が800万人を超え、頑張って勉強し、認知症について知ってくれる人が増えたことはとてもありがたいことですが、その名称からは『認知症の人はサポートが必要な存在』という考えが透けて見えるように思います。」と記されていました。

「認知症になったからといっていつもサポートを求めているわけではなく、普段は認知症の人と一緒に生活を楽しまつつ、必要な時に自然な形でサポートをしてくれる存在を求めています。」という言葉がとても印象に残りました。(I)

ホームページもご覧ください。
バックナンバーを掲載しています

<http://shinai.or.jp>